

宮古民報

2020.11.1
第1684号

日本共産党
宮古地区委員会
市内宮町4-6-49
電話62-5808
FAX 62-3897

しんぶん赤旗
日刊紙3497円
日曜版 930円

停留所で停車可能なダイヤを

盛岡市と合同で申入れ等を検討

12月6日から新区界トンネルの通行か可能になるも、106号バスの路線見直し問題で10月26日、議員全員協議会が開かれました。



総務委員会の内容を説明する松本委員長(左)

松草と共に去石、区界住宅前、区界、飛鳥、飛鳥口が通過停留所になり、30分の時間短縮に、快速便では根市、川内の12停留所と黒沢、田代の2か所の計14か所が追加され25分の短縮計画です。

新トンネルの利用にもなう地域生活への影響対策として市は、盛岡市と協議を継続、現道のトンネルを経由する案の実現へ盛岡市と合同でバス会社に申し入れも含め協議中とも報告しました。

準急と快速を是正
市は各停留所の停車が可能な路線の維持を基本にバス会社に準急と快速を「5便対7便」への見直しも交渉の余地に残す考えです。また、地区の

総務委員会以後、市から新たに全協に示された点は以下の通りです。
*現道での停留所の停車
新トンネルを利用した区間運行時間が示され、12月からの各停留所便で135分、急行便では120分が、全線開通後の4月からは準急、快速となり、105分、95分それぞれ変更となる案です。4月からは各停留所ごとに留まる便は無くなり準急で平津戸、門馬、

市議会は常任委員会(こと)にコロナ禍のもとで市政に政策提言を行う作業を行って来ましたが、

総務常任委員会

いるのが特徴です。

骨子は公共交通への支援、避難所の感染防止、策では自動車運転免許返還、財政運営の3点です。公納割引・障がい者割引の

免許返納割引支援を

コロナ禍対応で市に政策提言

公共交通への提言では、コロナ感染症の終息が見通せない中、利用促進策と事業者の実態に即した支援策を求めています。対象となる交通事業者に自動車運転代行業も含めて

で指摘されたJRの時刻表も資料に補足した」と説明しました。古館彰秀議長は交渉の経緯等、この件は今後、所管する総務常任委員会の担当として全協を閉会しました。



公共交通を担う宮古駅列車の様子

山田線の利用促進策は

田中議員 実態を示し改善提起

質疑

【問】公共交通政策でJR山田線は利用しやすいダイヤが実現できたか。

【市長】JRは民間なので、我々でこうしろとは言えないのが第1点。需要がないところには走らせられないのがJRの考え。新幹線等との連動性を確保できないのが主要因と思っている。

【問】市の事業ではイベント対応の臨時列車の乗車率が高く、好評だ。私は、三鉄の相互乗り入れを取り上げ、市長も同じ考えということだが、元年度は具体的な動きはなかったという理解でよろしいのか。

【市長】表面的には実行されていないが三陸鉄道、JR含めて、やっていこうとの話はしている。

【問】JRは需要がないというが都市間移動で東北バスは年間30万人運んでいる。JRはどうか。

【多田課長】利用者数は8万8,000人ほどだ。

【問】利用促進の決め手は、利用者への助成金、JRへの助成金も1つの方法。膠着状態を一步でも打開するため市長の秘策等や考えは。

【市長】県北自動車のように赤字の補填は今は、やっていないが、イベント列車等に補助を出し、運行している。それ以外には切符回数券等の補助もしている。

快速列車の時間短縮を
【問】根本的な対策の軌道改良にお金をかけなくても、途中の駅を省くだけで安全な速度で、時間短縮が見込め、2時間を切れるのでは。

【多田課長】区界から茂市まで55キロ制限区間が多く時短が見込めない。

【問】安全度も担保し、構造上の問題も検証して改善を望む。(完)

部分に、その家庭の人生が凝縮されている▼品が問われるが、凝縮と言えば菅総理の国会答弁。ウソが嫌と言うほど散見する。日本学術会議の問題で言えば、その本質は法律への理解▼憲法と学術会議法への無知をさらけだして恥じない。国家公務員の任命権を盾に問答無用は独裁政治。法の解釈も自己都合よく変更する。元の政治がアベノミクスでは底が知れる。

には市職員の利用促進と市民に利用周知を図り、半額2枚切符の延長を働きかける③タクシー協会宮古支部には、夜間営業(現在は中止)への支援を行う④自動車運転代行業にはタクシーと同様の支援が受けられるよう、観光宿泊施設等緊急支援事業(車1台30万円)の拡充を行う事を求めています。(つづく)

漁火

秋の有名な草花といえは「コスモス」。山口百恵さんの「秋桜」は日本の歌元タイトルは「小春日和」。さだまさしさんの作詞、作曲で知られる。秋の陽だまりに揺れる、その花を背景に、涙もろくなった母の咳をする情景から歌は始まる▼嫁ぐ娘と、送りだす母の心情が伝わる。アルバムを開いて、幼いころの思い出を何度も繰り返すと言う

